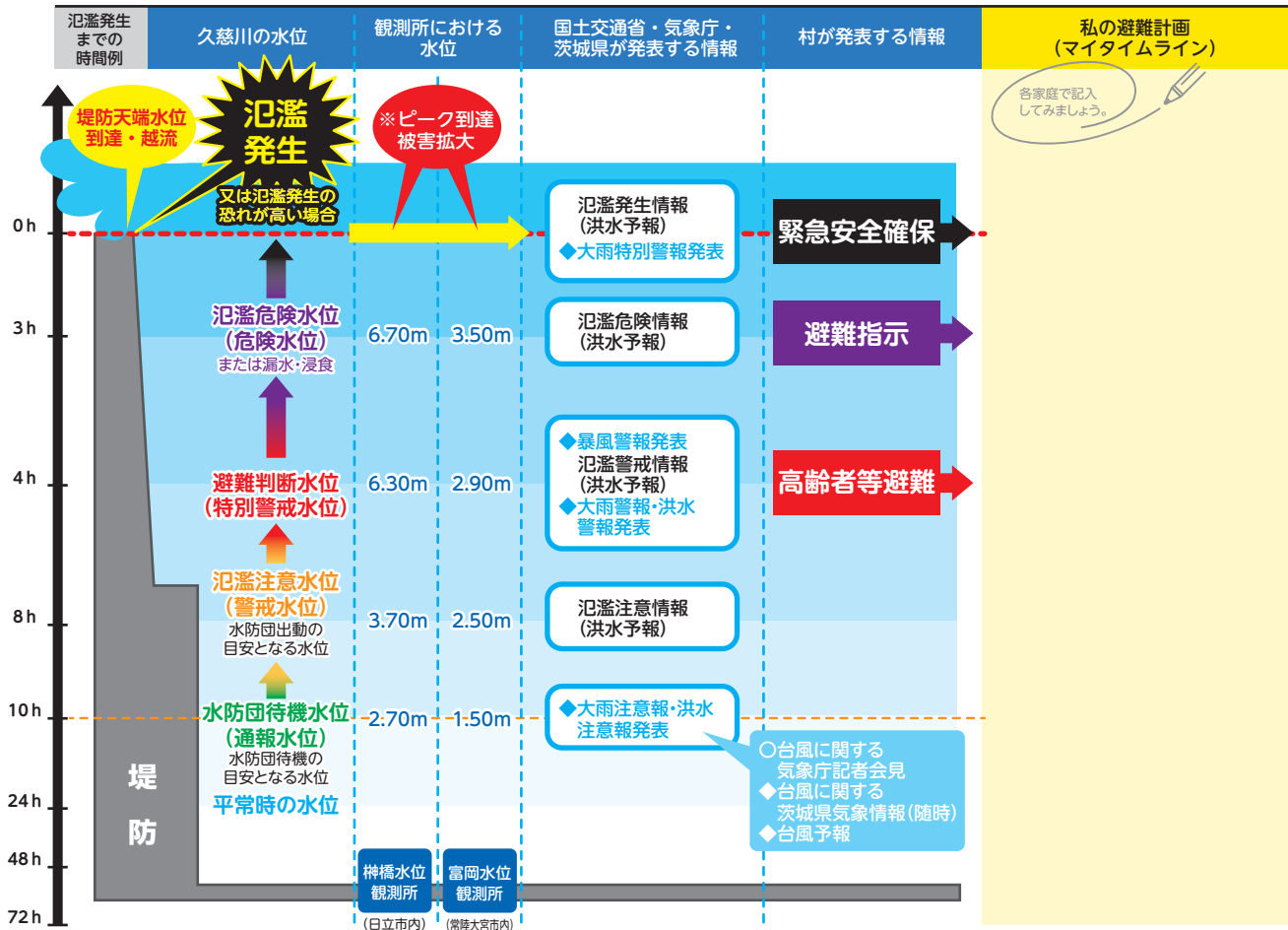


避難の目安を考えよう！

洪水時に備えた気象情報・避難情報 自分の避難目安を考える～マイ・タイムライン～

ハザードマップで自宅周辺の洪水のリスクを確認しながら、下記の表を参考に自身の避難計画(マイ・タイムライン)を作成しましょう。



※このタイムラインは台風による洪水を想定したものです。※気象情報に関する発表等のタイミングについては、地域・事象によって異なります。

特別警報 (気象庁が発表)

- 尋常でない大雨や津波等が予想されています。
- ただちに身を守るために最善を尽くしてください。
- 重大な災害が起こる可能性が非常に高まっています。
- 特別警報が出たからの避難では遅いです。

特別警報の発表基準

現象の種類	基準	
大雨	台風や集中豪雨により数十年に一度の降雨量となる大雨が予想される場合	
暴風	数十年に一度の強度の台風や同程度の温帯低気圧により	暴風が吹くと予想される場合
高潮		高潮になると予想される場合
波浪		高波になると予想される場合
暴風雪	数十年に一度の強度の台風と同程度の温帯低気圧により雪を伴う暴風が吹くと予想される場合	
大雪	数十年に一度の降雪量となる大雪が予想される場合	
津波	高い所で3メートルを超える津波が予想される場合 (大津波警報を特別警報に位置づける)	
火山噴火	居住地域に重大な被害を及ぼす噴火が予想される場合 (噴火警報 (居住地域))*を特別警報に位置づける)	
地震 (地震動)	震度6弱以上の大きさの地震動が予想される場合 (緊急地震速報 (震度6弱以上)を特別警報に位置づける)	

(*) 噴火警戒レベルを運用している火山では「噴火警報 (居住地域)」(噴火警戒レベル4または5)を、噴火警戒レベルを運用していない火山では「噴火警報 (居住地域)」(キーワード: 居住地域嚴重警戒)を特別警報に位置づけています。